

- ・河畔緩衝帯 (riparian buffers) は、いわゆる陸域と水域の移行帯 (ecotone) であり、水辺生物の生息場、森林から供給される物質の滞留、地下水の保全等の場として多様な機能を持っている。
- ・EU水枠組み指令などにより、各国が治水+環境保全+利水の観点から有している知見は以下のとおりであり、**河川の持つ生態学的機能維持の観点からは約20～30m、生物多様性の保全の観点からは100～150mの緩衝帯が必要**とされている。

河畔緩衝帯の必要幅【2005年】				
	河川水温上昇の抑制	有機物供給	水質・地下水保全	水生生物保全
日本 ⁽¹⁾	40m	40m	50m	100m

河畔緩衝帯の必要幅（様々な文献の平均値）【2019年】				
	水質・地下水保全	植物の多様性保全	水生生物、両生類・小型哺乳類保全	鳥類の多様性保全
EU（北欧） ⁽²⁾	11m	24m	25-53m	144m

河畔緩衝帯の必要幅【2005年】		
	水質・地下水保全	治水
米国 ⁽³⁾	10～50m	30m

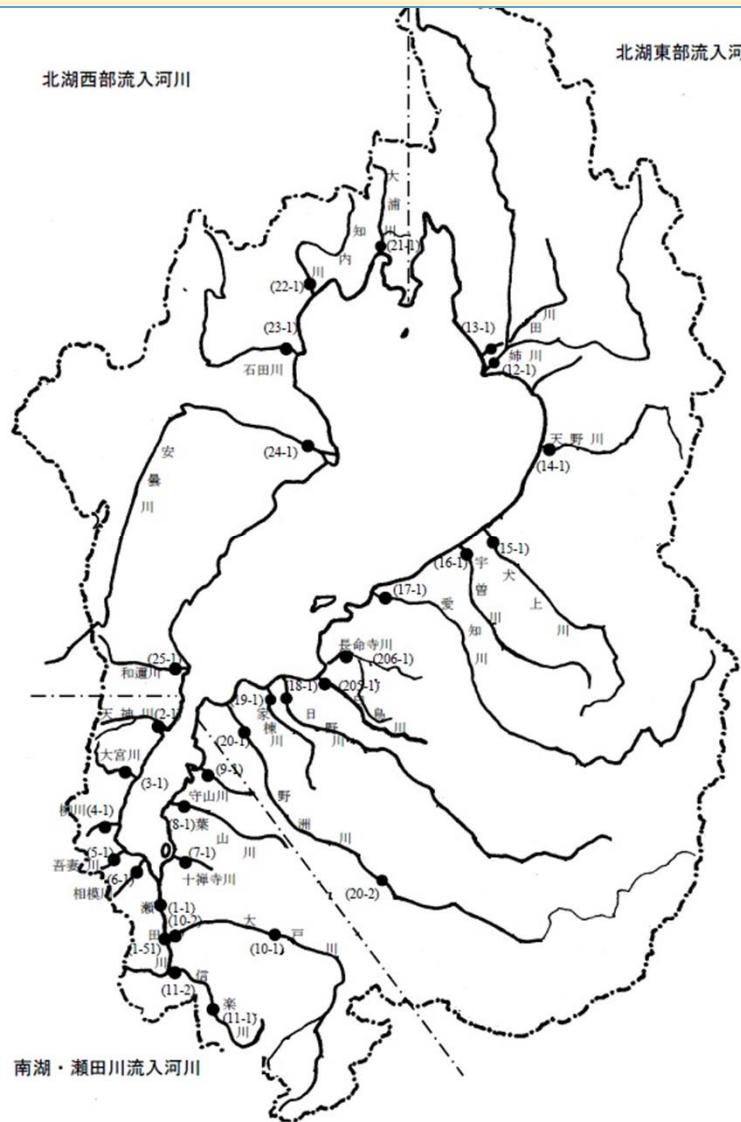
- ➡・流域治水や地下水保全の観点に加え、水生生物等の保全の観点から範囲を設定する場合、河川から100mの距離が必要。鳥類の保全まで考慮すると、河川から150mの距離が必要。

【参考文献】

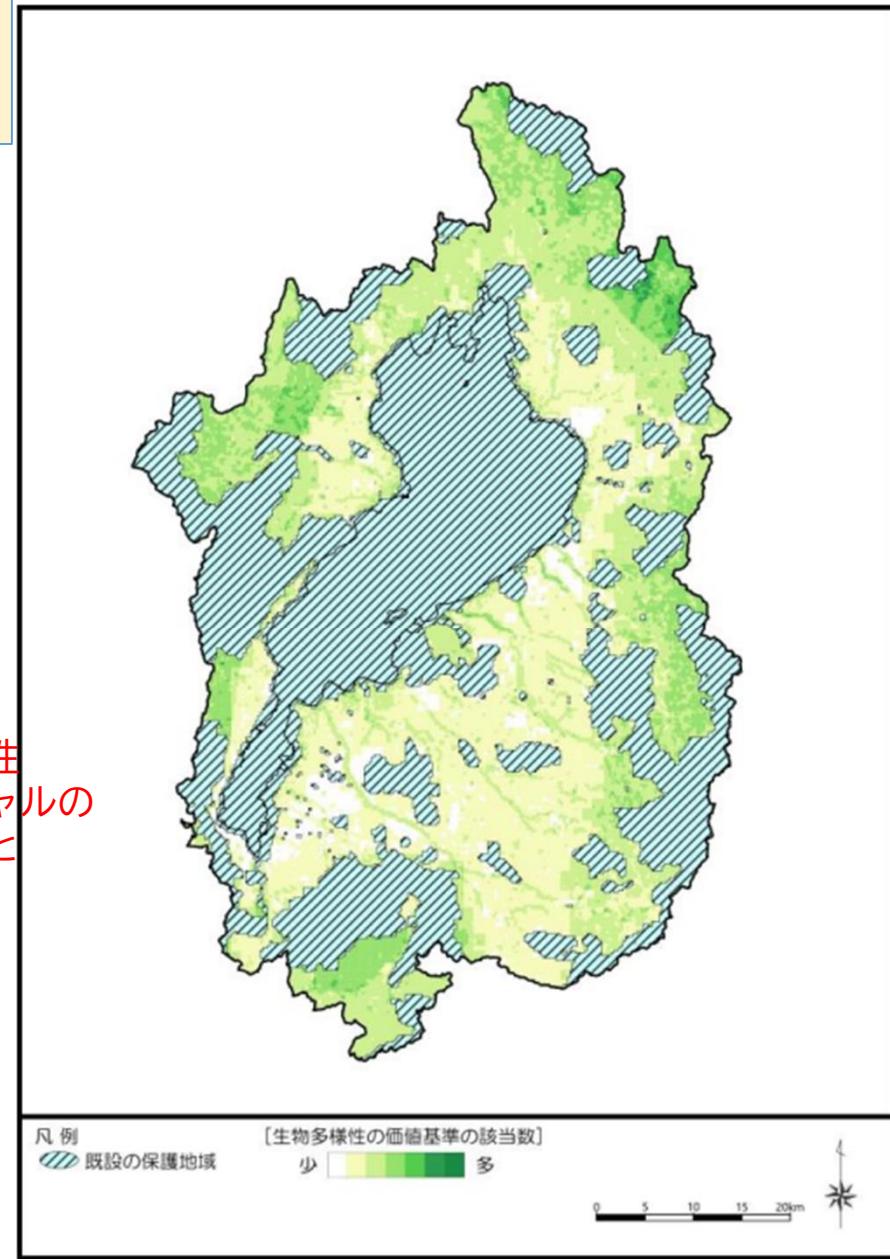
- (1)北海道立林業試験場森林環境部, 河畔林のはたらきとつくり方, 平成17年3月
- (2)Lovisa, L. Eliza, M. H., & Hjalmar, L. Towards ecologically functional riparian zones: A meta-analysis to develop guidelines for protecting ecosystem functions and biodiversity in agricultural landscapes. (2019). *Journal of Environmental Management*
- (3)EPA, Riparian Buffer Width, Vegetative Cover, and Nitrogen Removal Effectiveness: A Review of Current Science and Regulations. (2005).

滋賀県での「従来どおりの環境アセス手続が必要なエリア」としての 河畔緩衝帯の設定について

- ・滋賀県の地域特性も考慮し、環境基準等が設定されている、各地域の主要27河川から200mの範囲とするのが妥当

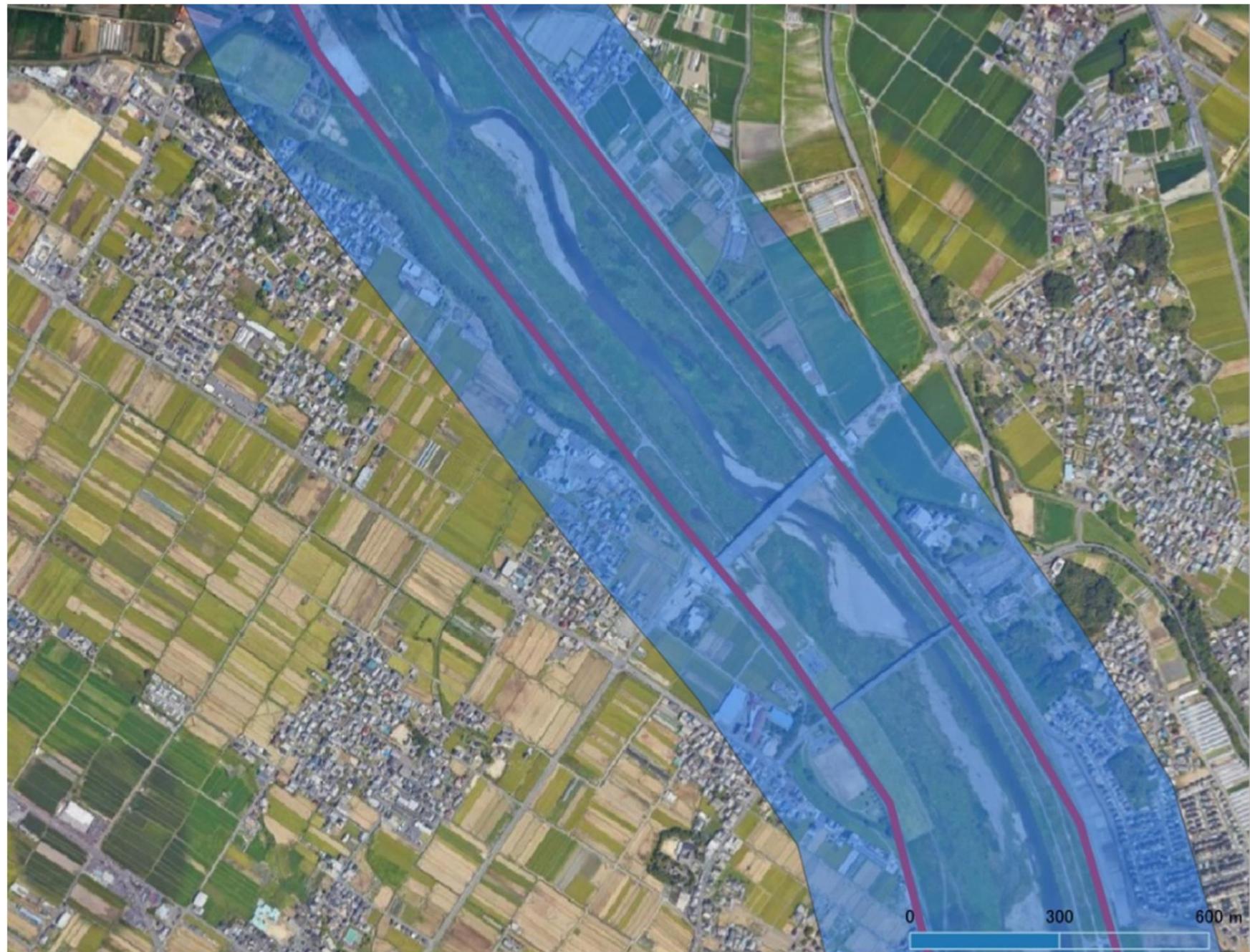


生物多様性 ポテンシャルの 高い場所と 概ね一致



<野洲川（守山市笠原町付近）：河川堤防から200m>

【凡例】青：河川から200m



<愛知川（東近江市八千代橋付近）：河川堤防から200m>

【凡例】青：河川から200m
緑：森林地域

